

一代雜種の組合はせ方

農學士 勝 木 喜 董

一代雜種又は雜種第一回と云ふ言葉は此頃養蠶に關はる人々の間に普く用ひられ殆んど通俗語の様に何の解釋をも要せぬ程普遍的のものであります、然し其の使用者は果して其意義を明了に正確に知りて居られるか如何か疑問であります。

當今では最早古い例でありますが、一二を擧げて見ますと。

『是は本年直輸入のポリジアロエキストラと日本種某との日歐一代雜種であります』とか、又は『ビッアロと支那種某との歐支一代雜種であります』とか。

説明をせられるのを今尙ほ所々で拜聴いたしますが、説明をされる御方より聞かせられるおちらで赤面いたす次第であります、(何故であるかは私が富岡でお話いたしました速記が蠶絲會報にも蠶業新報にも載せてあります故あれを御覽くだされば其中に色々かような間違を訂正して置いた話がありますので直ぐ御解りになります) こんな風でありますから疑問であらねばならぬではありませぬか。

尙ほ一步進んだ方で例を擧げますと。

『是は日本種赤熟と伊太利種某との各純系を選出して之等を交配したF₁(一代雜種の事)である』と云は

れるのを聞いた事があります。

是になりますと各純系を撰出して之等を交配したのであります故誠に感心のようであります、少し冷静に考へますれば純系を撰出したと云ふ事が解らなくなつて來るのであります、何故かと申しますると、日本種赤熟の如何なる特質に就いて純系を得たのであるか、又伊太利種某の如何なる特質に就いて純系を撰んだのか甚だ曖昧であります、是は大分進んだ方であるようで矢張り充分了解せられてゐないのであります。

抑も吾々が一代雜種を作りまするには吾々が理想といたしまする其の理想の要求する色々の特質に就きまして、夫々の性質の一代雜種を作らねばならぬのでありまして、それにはまた各性質夫々の純系を得ねばならぬのであります、夫々の特質とは何であるかと申しますと、繭で例へて見ますれば繭の色であるとか、繭の形であるとか、又は繭の大小であるとか絲縷の織度の如何とか申す様かもので此外色々の性質があります、繭だけでも色々の特質があります、蟲に就きましても卵に就きましてもまた色々の特質があるのであります、是等の特質の夫々に就いて純系を得まして掛合はせをいたしますればこゝで初めて其特質に就いて一代雜種が出来るのであります、而してたとへば繭の色に就いての一代雜種繭の形に就いての一代雜種又は繭の色と形とに就いての一代雜種といふ風のもので出来るのであります、夫故に或る特質一つだけの一代雜種が出来る事もありますし、また同時に二三の特質に就ての一代雜

種を得る事もあり、乃至は吾々の理想の一代雜種を一時に得る事も出来るのであります、また尙色だけの一代雜種が出来ても形織度等は一尙一代雜種でない事もあれば形織度が一代雜種であつても色が一代雜種でない事もあります。

おんな風であります故、一代雜種といふ言葉が正確に用ひられて居るか否かといふ疑が出て來るのであります。

今お話致しました様な事を御了解の上一代雜種をお作りになる様に即ち原種の撰び方に御注意ありて組合はせなさらねばならぬのであります。

それから色から色形なら形といふ特質について純粹のものを得たとしても、是を用ひて出来る一代雜種はごんお風に組合はせが出来るか、是も念頭に置かれる方がよいと思ひます故是からお話をして見ようと思ひます。

今繭の色に就きてお話をいたしますれば、

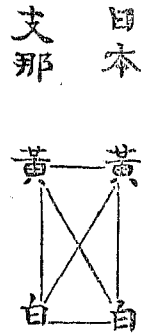
茲に日本の白繭と黄繭との二種の色の純粹種があります時は

黄	繭	♀
↑	×	↑
白	繭	♀
↑	×	↑

白繭の雄と黄繭の雌、白繭の雌と黄繭の雄、即ち二通りの組合はせ方があります。

更に支那の黄繭と白繭日本の黄繭と白繭の四種の純系がありますれば。

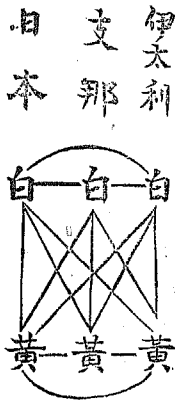
- 一、支那黄雄 × 日本黄雌
- 二、支那白雄 × 日本白雌
- 三、支那黄雄 × 支那白雌
- 四、日本黄雄 × 日本白雌
- 五、支那黄雄 × 日本白雌
- 六、支那白雄 × 日本黄雌



以上六種と其外に以上六種の雌雄を逆にしたるもの六種出来ます故都合十二種類出来ます。

尚ほ進んで六種の色たとへば日本の黄と白支那の黄と白伊太利の黄と白がありとしますれば、次の様な組合はせ方が出来るのであります。

一、日本白雄	二、同	三、同	四、支那白雄	五、同	六、同	七、同	八、伊太利白雄	九、同	十、支那白雄	十一、支那白雄	十二、日本白雄	十三、日本黄雄	十四、支那黄雄	十五、伊太利黄雄
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
日本白雌	支那白雌	日本白雌	支那白雌	日本白雌	支那白雌	日本白雌	支那白雌	日本白雌	支那白雌	日本白雌	支那白雌	日本黄雌	支那黄雌	日本黄雌



以上十五種であります。然し以上十五種皆雌雄反對の場合があります故合計三十種にありませう。

かように致しましても十色の色がありますれば九十種百種の色があれば九千九百種の組合せ方がありま
す。

形其他色々の特質についても同じ組合はせ方があります、是等の組合はせ方の數を知りまするにはどう
すればよいかと申しますれば次の公式を用ひればよいのであります。

$$2 \times nC_2$$

之を解きますれば次の様になるのであります。

$$2 \times \frac{n(n-1)}{2.1}$$

$$= n(n-1)$$

n は自分の有する或る性質に就いての純粹種の數であります、故に今二種の色の純粹種があればいくつ
の組合はせ方があるか知りたいといたしますれば、

$$2(2-1)=2$$

即ち二通りであります。

若し四種異なりたる色の純系があれば其組合はせは

$$4(4-1)=12$$

十二通りあるといふ具合であります。

そこで一代雜種をお作りになるならば此處の所を能く御注意にあり自分達が要する色々の性質の純系を求め其各性質色々の一代雜種を作り、而して是は繭の色形大小織度等に就いての何と何との一大雜種であるか、甲は乙よりはよいとか乙は甲より云々と比較をしてよいものを選ばねばならぬと思ひます。

普通世間では是は日支交配であるとか、是は伊支交配であるとか申して其善い事を唱へて居りまするが私には其の意義が解し得ぬのであります。

日本には御存じの通り種々の品種があります、支那にも歐羅巴にも日本と同じく色々の品種があります殊に歐羅巴と申しましたも誠に廣く伊太利も佛蘭西も埃太利も皆羅歐巴の中であります、是等の國々に夫々色々の品種があります、それゝの日に日支交配歐支交配など誠に曖昧では是がよいと申しますが何に比較してよいのか不明であります、又夫等の交配種は唯單に雜種であるのか一代雜種であるなら何に就いての一代雜種であるのか、其組合はせは如何なる方法を採用したのか語を換へて申しますと其原種は如何なる性質の純粹種を用ゐて如何なる特質についての一代雜種が出来て單に一つだけ組合はせて見たのか色々の組合はせを作りて見たのか愈々益々曖昧にありて來るのであります。

要するに現時は秩序立ちた根本的の種類の改良が必要で一代雜種を作るにいたしましたも『所謂、でも』式はお断りしたいものと思ひます。(完)